

【背景】地域特性の課題解消

- 長野県は標高が高く、冬の厳しい寒さと日中・朝晩の大きな寒暖差が特徴で、住宅では高い断熱性能が求められます
- 女性の就業率が高く、共働き世帯の割合が全国トップクラスです

【目的】IoTを活用で健康と家族を守る

- 寒冷地特有の健康リスクを抑制し、共働き世帯の生活負担を軽減する「信州ウェルネス住宅」の確立
- 顧客の「購入意欲」と「満足度」を検証し、地域密着型ビルダーによるIoTスマートホームの普及モデルを確立する

【実証内容】

- 高断熱住宅にIoT温熱環境マネジメントを導入し、厳冬期の居室間温度差を最小化することで、ヒートショックリスクの低減効果を実証する。
- 共働き家庭の見守り・防犯対策を強化し、外出時の「安心感」を定量的に深化させる。
- 本プロジェクトの検証を通じて、信州の住宅購入検討層（特に子育て・共働き・高齢者層）が、IoT機能に対してどの程度の「費用対効果」と「購入意欲の増加」を感じるかをアンケートやヒアリングで明確にする。

【目標(スケジュール)】

- 令和7年度：実施設計・モデルハウス建築計画
- 令和8年度：新築工事19棟+モデルハウス1棟建築にて実証の開始
- 令和9年度：新築工事20棟建築・実証及び調査
- 令和10年度：実証及び調査

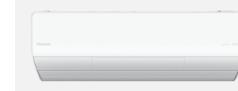
【実証体制】

- 東邦建工株式会社（住宅供給会社）
- 株式会社デンセン（IoT機器供給業者）
- パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社（機器供給業者）

【IoT技術等の内容】

- 【1】住宅の基本性能（長期優良住宅・断熱等級5）を必須とし建物内外の温度を計測する。具体的には外気温センサーの設置・建物内はリビング・トイレ・脱衣室に温度センサーを設置し夏季（7・8月）と冬季（1・2月）の室内温度の寒暖差の測定・Aiseg3の蓄積データの検証
- 【2】家族全員の不在時はもちろん、子どものみになってしまう・高齢者だけになってしまふ等を見守り、代わって対応できるインターホン・玄関ドア電気錠・窓の開閉センサーの設置・屋外カメラと室内カメラの設置

健康リスクの抑制



●寒冷地向けエアコン



●温湿度センサー



スマホに通知



●電気錠・インターホン



●窓 開閉センサー



●屋外カメラ



●屋内カメラ

